

# 医療・介護提供体制の今後を考える

- 歴史と将来予測を踏まえた長期的視点 -

- 2023年1月12日
- 新春座談会
- 埼玉県県立大学・慶應義塾大学
- 田中 滋

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

1

## 最近の四半世紀に起きた 医療・介護分野の革新

- 50年～30年前の日本医療の課題
  - 脳卒中発症→救急医療→急性期病床入院→退院→一部は“寝たきり”老人
- 地域連携クリティカルパスと介護提供体制
  - 急性期病床→(2000年～)回復期リハビリテーション病棟→and/or (1987年～)老人保健施設→在宅療養／介護施設
- ゴールドプランと介護保険制度

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

2

## 2020年代の急性期入院医療の課題

### ■ 平均的入院患者像の変化

- 著しい高齢化 cf.死亡者も
- 入院前から要介護あるいはフレイル
- 認知症を含むマルティモビディティ
- 急性症状→救命や重症状態対応のために急性期病院入院  
cf. 複数の慢性疾患や介護ニーズへの対応 ≠ 主目的
- ADL/IADLの悪化→在宅生活困難

3

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

## 今後の急性期入院医療の課題

### ■ 平均的入院患者像の変化は続く・加速する

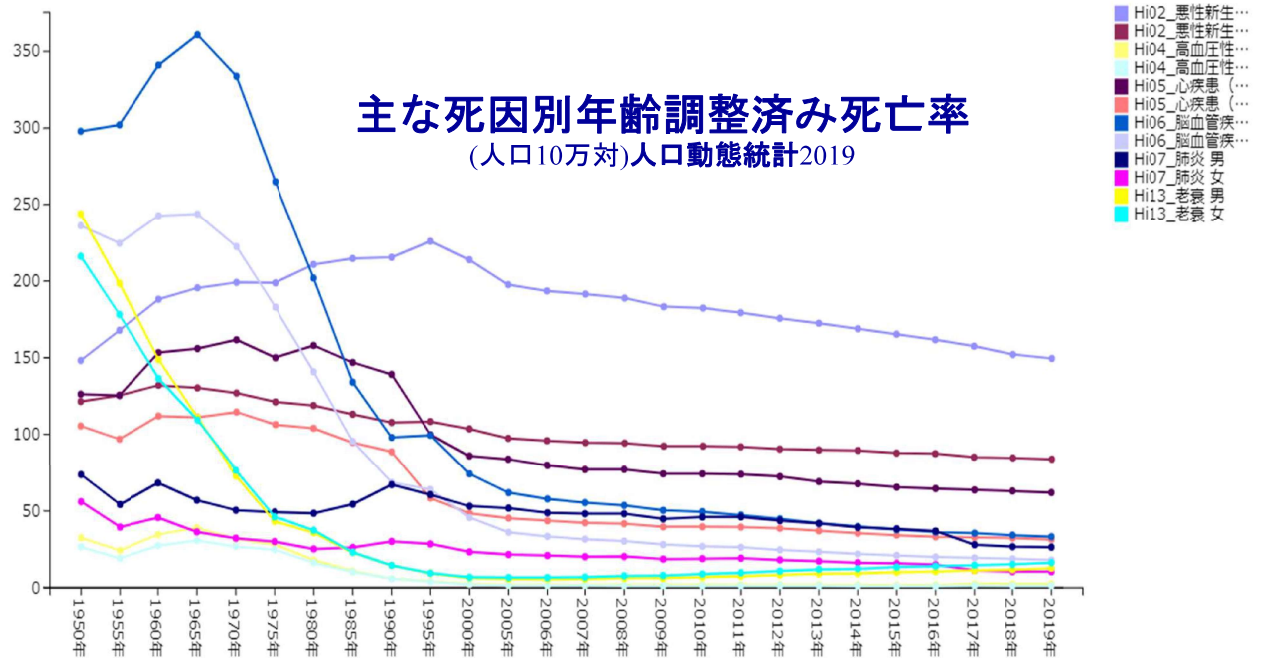
- 新型コロナウイルス感染症はこうした事態を表出させた
- 急性期入院の理由となった傷病の治療に加え、複数の慢性症状を抱えながらも居宅に戻って暮らすための医療
- 栄養状態・経口摂取力・排泄 etc.
- 病院における介護職の明示：医療法

4

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

# これからは本格的超高齢社会

5



## これから起きる医療・介護ニーズの変化

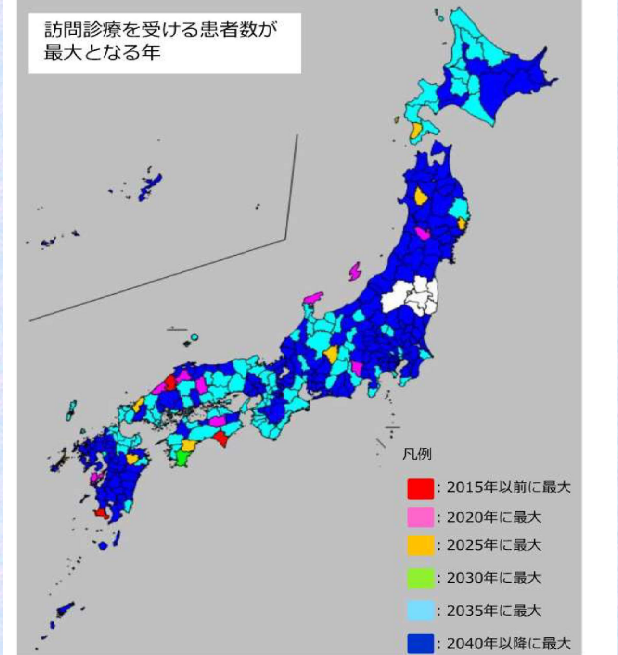
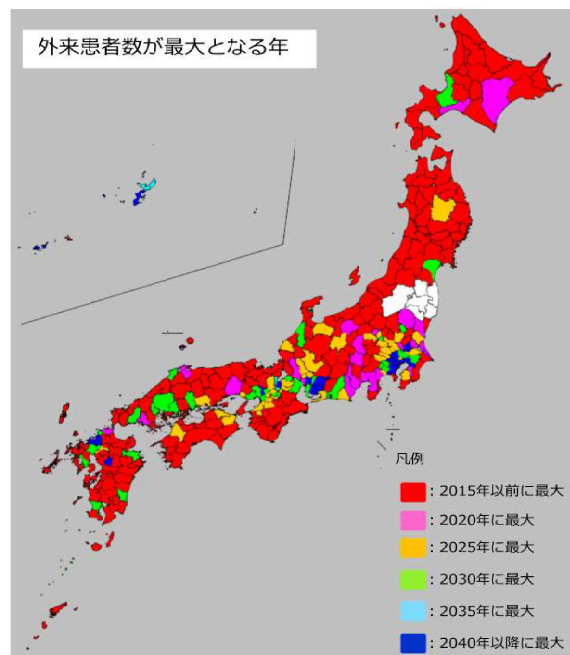
### ■ 地域ごとの著しい違い

### ■ 入院外医療は外来だけではない：在宅＋遠隔

- 外来患者数ピークは2025年：217/335医療圏ですでに減少
- 在宅医療患者数ピークは2040年以降に：203/335
- cf. すでに...
  - ✓ 在宅患者訪問診療料件数は10年間で2倍以上
  - ✓ 介護保険給付訪問看護利用者数は55万人、20年間で3倍
  - ✓ 医療保険給付訪問看護利用者数は30万人、30年間で6倍

6

## 7 外来と訪問診療患者数のピーク：医療圏ごと



出所：第8次医療計画等に関する検討会資料1 第9回2022

## 8 地域包括ケアシステムの中の在宅医養

- 多職種・多事業所・多組織による協働と連携への理解
- 医療保険給付・介護保険給付サービスの組み合わせ
  - 医師：退院前指示、外来診療、訪問診療
  - 看護師：退院指導(共同)、訪問看護
  - 介護職：介護サービス
  - ケアマネジャー：ケアマネジメント
  - 薬剤師：訪問薬剤管理指導、居宅療養管理指導
  - 歯科医師+歯科衛生士：訪問歯科診療、口腔衛生管理と居宅療養管理指導
  - リハビリテーション職種：訪問リハビリテーション
  - 管理栄養士：在宅訪問栄養食事指導、居宅療養管理指導

# 地域包括ケアシステムの中の在宅療養

9

- 在宅患者く生活者、医療介護は支え
  - 居宅・居住系＋施設
  - 生活支援サービス不可欠：自助(ビジネス)＋互助
  - 地域包括ケアシステム「広がり＝まちづくり」の視点へ
  - 一部の住民には地域包括ケアシステム「深まり＝専門的福祉サービス」も不可欠

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

# 社会保障制度に対する役割期待の変容

10

- 古典的社会福祉＝公助：救貧・慈善
- 近代的社会保障＝共助：金銭ないし現物給付による防貧  
ひいては社会の安寧
  - 生存権保障＝撫民
- これからの社会保障：上記に加え、社会参加支援＋包摂
  - 社会とのつながりが弱った人
  - 子ども

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

## 医療・介護関係者に求められる姿勢

### ■ ボリュームゾーン

- 複合化した傷病・介護・生活ニーズを持つ超高齢者のQOLを支える医療と介護、生活支援、そして看取り

### ■ 外来中心ではなくなる

- 在宅療養を支える多組織・多職種、生活支援

### ■ 地域の医療・介護情報を扱う拠点とDX

### ■ 地域医療構想や介護保険事業計画の基本

- 病床数ではなくネットワークの作り方

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

## 医療・介護関係者に求められる姿勢

### ■ 政策も経営も「理念と分析に基づく選択」＝決め事

### ■ 成果は遂行能力や部下の信頼度合による

### ■ 患者・要介護者支援「特定分野の専門職および管理者」

### ■ 社会を支える「地域と時代を視野に入れた人材」

01/12/2023 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

## プロフィール

田中 滋 (たなか しげる)

- 公立大学法人埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学名誉教授
- 専門：地域包括ケアシステム論、医療・介護政策、医療・介護経営、医療経済学
- 経歴：慶應義塾大学大学院経営管理研究科助手・助教授を経て 1993-2014 年教授
- 現在務める学会役職：日本地域包括ケア学会理事長、日本介護経営学会会長、アジア太平洋ヘルスサポート学会理事長、日本ケアマネジメント学会理事
- 現在務める主な公職：社会保障審議会会長（兼・介護給付費分科会長・福祉部会長）、医療介護総合確保促進会議座長、協会けんぽ運営委員会委員長